

平和都市宣言 30 周年記念パネル展

5 日、区役所 2 階区民ギャラリーでは、世界の恒久平和を願った展示会を開催しています。杉並区は、平成 63 年 3 月に、「杉並区平和都市宣言」を行い、今年度は 30 周年記念事業として、戦争体験者・被爆体験者の証言記録映像を制作。会場では、このビデオの上映や小・中学生の平和のためのポスターコンクール入賞作品などを展示しています。展示は、3 月 8 日までで、6 日には日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏による平和ロビーコンサートも予定されています。

昭和 63 年 3 月 30 日、区は平和都市宣言を行いました。また、平成 3 年には「日本非核宣言自治体協議会」、平成 24 年からは、現在の「平和首長会議」に参加しています。こうした取り組みの原点が、昭和 29 年 3 月 1 日の太平洋ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験とマグロ漁船第五福竜丸の被爆です。この事件を受けて、食の安全を危惧した区内の魚商協同組合が立ち上がり、さらに婦人団体や PTA 協議会などによって「水爆禁止署名運動杉並協議会」が結成され、それが全国に拡大していきました。

また、3 月 10 日は、「東京都平和の日」です。昭和 20 年 3 月 10 日深夜 0 時過ぎ、アメリカが約 300 機の B29 を用い東京に大量の焼夷弾を落としました。その結果、東京は一面焼け野原となり、約 10 万人が犠牲となりました。区の平和に関するパネル展も、こうした過去の記憶を風化させないため、この時期に行っています。



そして、パネル展のほかにも平和の大切さを伝える事業として取り組んでいるのが、戦争体験者・被爆体験者を講師とした、小中学校での平和出前授業です。この出前授業は、平成 23 年度から開始したもので、毎年 10 校程度で実施しています。9 月 8 日、区立松ノ木中学校の 3 年生の授業の講師は、杉並光友会の山中武子さんと吉田一人さんです。それぞれ広島と長崎での被爆体験を子どもたちに伝え、原爆が二度と使われないよう活動をしています。今年度は、平和都市宣言 30 周年記念事業として、この松ノ木中学校での出前授業をビデオ収録し、より多くの方々に伝えることで、原爆の無益さ、戦争の悲惨さを風化させることなく語り継いでいくこととしました。ビデオはパネル展で上映するほか、ユーチューブ杉並区公式チャンネルから視聴することができます。